

川に見る・日本の四季⑫ 秋田の川の「冬」を追う

薄日差す雪の下を往く、米代川の流れ。

北秋田市の中心、鷹巣^{たかのす}を早朝に出発した。

積雪はゆうに1mを超えているが、国道は除雪が行き届いているので走りやすい。国道101号(鷹巣バイパス)を少し南下すると米代川にぶつかった。川幅が広い。

外は吹雪いている。雪雲が重苦しく垂れ込め、視界は10mもなさそうだ。ところが、雪雲の動きが速い。しばらくすると、雲が薄くなり、うっすらと太陽が姿を現した。

黒々としてゆったりと流れる米代の川面。視界を白く染める雪。そして中天の薄日——急いで撮影ポイントを捜した。雪が深く、川

面が見える場所にたどり着くのに少し時間がかかったが、何とか薄日が差している間にシャッターを押すことができてほっとする。

雪国の空は激しく変転する。あっという間に雲が湧いて動き、陽は雪雲に覆われ、吹雪が激しくなった。

この後、米代川の支流、阿仁川から小又川に入り、また、県内を南下し、子吉川^{こよし}上流の玉川渓谷まで足を伸ばした。

冬の秋田の川はいずれも雪の中だ。寒さは厳しいが、どこか心洗われるような凜とした景観であった。



(上) 子吉川の上流、山形県との県境に聳える鳥海山の麓の玉川渓谷に向かう。2mを超えていると思われる雪の壁の中を走る。除雪がされない所はカンジキで歩き、辿り着いたのがこの写真。雪上の小動物の足跡が印象的だった。

(下) 米代川の支流、阿仁川を上り、マタギの里、阿仁前田から小又川に入る。女木内^{メノキ}付近で路肩の垂直な雪の壁を登り、やっと小又の流れに出会えた。木々には白い花が咲き、黒い川面には無数の綿帽子が浮いていた。

